

コーカサス地域安全保障の試み ～「コーカサス安定協定」の3+3+2 公式関係諸国～ (廣瀬陽子作成)

アゼルバイジャン	アルメニア	グルジア	ロシア	トルコ	イラン	ヨーロッパ	米国
<p>1997.3.15 紛争解決のための新しい試みとしてアリエフ大統領はシェワルナゼ大統領と共に「コーカサス平和構想」を発表。</p> <p>1998.9.8 バクーで「歴史的シルクロード復興」会議。</p> <p>1999.11.19 アリエフ大統領はOSCE イスタンブル首脳会談で、コーカサス安定協定を提案。バクー・トビリシ・ジェイハン石油油送管建設が決定。</p>	<p>1998.8.18 コチャリヤン大統領はグルジアとアゼルバイジャンの「コーカサス平和構想」に不信感表明(後に賛同)。</p> <p>1999.3.15 オスカニアン外相はロンドンでの講演で、地域の危機的状況を指摘しつつ、安定化のために地域組織の必要を強調。</p> <p>1999.11.19 コチャリヤン大統領は、OSCE イスタンブル首脳会談で、南コーカサスに地域安全保障システムが必要だと発言。バクー・トビリシ・ジェイハン石油油送管建設が決定。</p>	<p>1993 初 シェワルナゼ大統領が「平和な空」と名づけて経済的要素を含む紛争解決の青写真を提示<sup>2</sup>。</p> <p>1996 初 グルジア・北オセチア両大統領が経済協力に主眼を置いた「平和のコーカサス」構想<sup>3</sup>を起草し、それをコーカサス全体に広げる試みを開始。</p> <p>1996 シェワルナゼ大統領は、トビリシにおける講演で「平和のコーカサス」イニシアティブを提唱し、地域の権威の確立、紛争の和平と難民問題の解決の必要を強調。</p> <p>1997.3.15 アブハジア問題解決の新しい試みとしてシェワルナゼ大統領はアリエフ大統領と「コーカサス平和構想」を発表し、ナディバイツェ国防相をナズランに送り、チェチェンとイングーシの指導者から構想への賛同を得る<sup>4</sup>。</p> <p>1998.3 グルジア・米国両国防相は、安全保障協力で合意に達す<sup>5</sup>。</p> <p>1998.9.8 バクーで「歴史的シルクロードの回復」会議。</p> <p>1998 年末の数ヶ月米国海軍軍艦が寄港<sup>6</sup>。</p> <p>99 末からシェワルナゼ大統領はコーカサスの安定を支持する動きに積極化。</p> <p>1999.11.19 シェワルナゼ大統領は OSCE イスタンブル首脳会談で、コーカサス安定協定を提案。</p>	<p>1998.6.21 ベレゾフスキー<sup>10</sup>がバクーで「平和な空・政治的安定」構想を提唱。</p> <p>1998.9.8 バクーでの「歴史的シルクロード復興」会議で不快感表明。</p> <p>1999 初 ロシアのイワノフ外相が「平和な空・政治的安定」構想に則って「コーカサスのフォーラム」を提唱。</p> <p>1999.11.19 OSCE イスタンブル首脳会談で、チェチェンが問題に。グルジアの軍事基地閉鎖も決定。</p>	<p>1998.9.8 バクーで「歴史的シルクロード復興」会議。</p> <p>1999.11.19 デミレル大統領は、OSCE イスタンブル首脳会談で、南コーカサスに地域安全保障システムが必要だとし、「団結(union)アピール」を出す。バクー・トビリシ・ジェイハン石油油送管建設が決定。</p>	<p>1999 から「コーカサス安定協定」のイニシアティブは口頭では支持。国境の現状維持を強く推進し、米国の影響力を排除したいと考える。</p>	<p>1998.9.8 バクーで「歴史的シルクロード復興」会議。</p> <p>1999.11.19 OSCE イスタンブル首脳会談で、コーカサスの安定の必要を強調。</p>	<p>1998.3 米・グルジア両国防相は安全保障協力で合意に達す<sup>23</sup>。</p> <p>1998.9.8 バクーで「歴史的シルクロード復興」会議</p> <p>1998 年末の数ヶ月米国海軍軍艦がグルジア寄港<sup>24</sup></p> <p>1999.11.19 OSCE イスタンブル首脳会談で、コーカサスの安定の必要を強調。バクー・トビリシ・ジェイハン石油油送管建設決定に尽力。</p> <p>1999 末から、公にコーカサスの包括的な安定体制創設に対して、</p>

<p>2000.6.20 アリエフ大統領は「キスロボドスク・プロセス」を掲げ、「コーカサス4」実現のため、4者会談をモスクワで開催。</p>	<p>2000.3.29 コチャリヤン大統領はグルジア国会における演説で、集団安全保障システムの具体的なスタイルとして、3+3+2方式(コーカサス G8)<sup>1</sup>を提案。ロシアの「コーカサス4」提案にも支持表明。</p>	<p>2000.4.9 シェワルナゼ大統領が再選される。2005年までのNATO加盟申請の方針を確認。</p> <p>2000.5.24-25 グルジアのブルドゥリ外務次官がフィレンツェでのNATOのEAPC外相会談でコーカサスのための安定協定を強く提唱<sup>7</sup>。</p> <p>2000.6.20 シェワルナゼ大統領は「キスロボドスク・プロセス」を掲げ、「コーカサス4」実現のため、4者会談をモスクワで開催。</p>	<p>2000初 トビリシでのコチャリヤン大統領の演説を受け、彼が主導権を握ることは不快であるが、そのアプローチに公然と反対することはせず、逆に3+1公式<sup>11</sup>を伴う「キスロボドスク・プロセス」を提案。</p> <p>2000 アレクサンドル・ジャソフオフ北オセチヤ大統領が署名した文書が、コチャリヤン提案へのモスクワの間接的な半公式的の回答と見なされた。コチャリヤン提案は南コーカサス指導者の反露的性格を証明しているとされ、4+2方式<sup>12</sup>が提案された<sup>13</sup>。</p> <p>2000.6.20 「キスロボドスク・プロセス」を掲げ、「コーカサス4」実現のため、4者会談をモスクワで開催。</p>	<p>2000初 デミレル大統領は「コーカサス安定協定」のイニシアティブを強く推進しはじめ、3+3+2公式を支持。ロシアの影響力を最低限に抑えるためにも、OSCEの役割が強調された。</p> <p>2000.1 デミレル大統領がグルジアを訪問し、地域の平和のフォーラム設立を力説<sup>14</sup>。</p> <p>2000.5.3-10 イスタンブルでCEPSが「コーカサス安定協定」の説明。</p> <p>2000.5～ デミレル大統領が任期を終えると、トルコは国家レベルではこのアプローチに対し、一気に冷却化。</p> <p>2000.6.8 CEPSがデミレル前大統領に「コーカサス安定協定」を説明。</p> <p>2000.6～9 「コーカサスのためのCEPS特別委員会」にTESEV<sup>15</sup>が参加し、南コーカサス三国大統領及び、当地の分離主義勢力の代表者とも会談。それを踏まえて、「コーカサス安定協定・増補版」を新たに</p>	<p>2000.1.28-29 CEPS<sup>18</sup>がOSCEと「コーカサス安定協定」に関し協議を開始。CEPSが開催の会議で「コーカサスのためのCEPS特別委員会」設立<sup>19</sup>。</p> <p>2000.3.22 CEPSが講演会で「コーカサス安定協定」計画を強調。</p> <p>2000.4.27-28 「コーカサスのためのCEPS特別委員会」が6章<sup>20</sup>からなる「コーカサス安定協定」をジュネーブで提案。</p> <p>2000.5.11 「コーカサスのためのCEPS特別委員会」が「コーカサス安定協定」の最初の主たる政治文書を発表。</p> <p>2000.5.20 「コーカサス安定協定」がルーマニアの会議で議論される。</p> <p>2000.5.31 CEPSがNATO・PfP加盟国と「コーカサス安定協定」に関する特別委員会を開催。</p> <p>2000.6.11-12 CEPSがテヘランで「コーカサス安定協定」を説明。</p> <p>2000.6.14 OSCE特別総会でCEPSがOSCE加盟国に「コーカサス安定協定・増補版」を説明。</p> <p>2000.6～9 「コーカサスのためのCEPS特</p>	<p>制創設に対して、立場を明確にはしていないが、同地域を米国の必須地域だと掲げ、紛争を解決して親交独立国の強化と石油政策が安定的に進められる状況を希望。クリントン大統領は、紛争解決については、ロシアに直接対峙するのではなく、OSCEの枠組みで対応。</p>
--	--	---	--	---	--	---

	<p>2000.9.26-28 CEPS がアルメニアで「コーカサス安定協定」に関する国際会議を開催。</p>	<p>2000.9.1 コーカサス安定協定に関する責任者として、グルジア外務省が特命全権大使を任命し、積極的な関心がより鮮明になった<sup>8</sup>。</p> <p>2000.10.05 シェワルナゼ大統領とメネガリシヴィリ外相は対露関係の悪化は遺憾だが、CIS との関係強化を図りつつ GUUAM; BSEC; TRACECA; NATO の PfP と EAPC の枠組を強化して、平和のコーカサス構想を実現することに強い意欲を表明<sup>9</sup>。</p> <p>2000.10～12 大統領の提案で「コーカサス安定協定・増補版」をグルジア語に翻訳。</p>	<p>2000.9.24 CEPS がモスクワで専門家や政府高官に「コーカサス安定協定・増補版」を説明し、出版。</p> <p>2001.1.9-10 プーチン大統領のバクー公式訪問。</p> <p>2001.1 ロシア軍のアブハジア PKO のマンデート延長。</p> <p>2001.3 グルジアに査証体制導入。</p>	<p>補版」を新たに出版。</p> <p>2000.6.29 デミレル前大統領がイスタンブルにおけるユーラシア・ビジネス会議で「コーカサス安定協定」の重要性を再度強調<sup>16</sup>。</p> <p>2000.10 TESEV がコーカサスと中東のワーキンググループを作り、関係各国の要人や大使らと会談し、諸問題を話し合った<sup>17</sup>。</p> <p>2001.1～2 EU トロイカ使節に呼応する形で、TESEV が 3+3+2 構想を練り直し、ブレンストンミングを行う。</p> <p>2001.2.16-17 TESEV がイスタンブルで 3+3+2 構想関係国の公的・民間専門家会議を開催。EU トロイカ使節も功を奏し、前進が見られた。以後このプロセスを「イスタンブル・プロセス」もしくは「平和のコーカサス・プロセス」と呼ぶようになった。特に、ナゴルノ・カラバフ和平の停滞とロシアとグルジア関係</p>		<p>別委員会」に TESEV が参加し、南コーカサス三国大統領（7.10-15）及び、当地の分離主義勢力の代表（7.25-8.22）とも会談<sup>21</sup>。</p> <p>2000.9.14 南コーカサス歴訪の成果を踏まえ「コーカサス安定協定・増補版」を新たに出版。</p> <p>2000.9.26-28 アルメニアで「コーカサス安定協定」に関する国際会議を開催。</p> <p>2000.10～12 「コーカサス安定協定・増補版」がトルコ語、ロシア語に翻訳。</p> <p>2001.2.12 EU のコーカサス・トロイカ使節<sup>22</sup>の準備会議。</p> <p>2001.2.20-21 EU が南コーカサスにトロイカ使節を送る。</p> <p>2001.3 CEPS が協定に関する文書を発表。</p> <p>2001.3.26/5.1 CEPS がセミナー開催。</p>	<p>2001.4 アゼルバイジャン・アルメニア両大統領のキーウエストで首脳会談を主導。</p>
<p>2001.1.9-10 プーチン大統領のバクー公式訪問。</p> <p>2001.4 米国主導でアゼルバイジャン・アルメニア両大統領が、米国キーウエストで首脳会談。</p>	<p>2001.4 米国主導でアゼルバイジャン・アルメニア両大統領が、米国キーウエストで首脳会談。</p>	<p>2001.1 ロシア軍のアブハジア PKO のマンデート延長。</p> <p>2001.3 ロシアがグルジアに査証体制導入。</p>	<p>2001.1 ロシア軍のアブハジア PKO のマンデート延長。</p> <p>2001.3 グルジアに査証体制導入。</p>				

<p>2001.5.21-22 モスクワでコーカサス4首脳会談の事前交渉が各国外相により行われる</p> <p>2001.5.28-29 モスクワでコーカサス4会議をより有益なものとするために「コーカサスの平和と発展」という学術会議が開催される。</p> <p>2001.5.31 ミンスクでのCIS首脳会談を利用し、コーカサス4の公式の第一回会合。</p> <p>2001.6.11 バクーでCEPSが「コーカサス安定協定」についての会議を開催。</p> <p>2001.11.24 モスクワでコーカサス4国会議長の会議。</p> <p>2001.11.30 モスクワでコーカサス4の公式の第二回会合。</p>	<p>2001.5.21-22 モスクワでコーカサス4首脳会談の事前交渉が各国外相により行われる</p> <p>2001.5.28-29 モスクワでコーカサス4会議をより有益なものとするために「コーカサスの平和と発展」という学術会議が開催される。</p> <p>2001.5.31 ミンスクでのCIS首脳会談を利用し、コーカサス4の公式の第一回会合。</p> <p>2001.9.14-15 プーチン大統領のエレヴァン公式訪問。</p> <p>2001.11.24 モスクワでコーカサス4国会議長の会議。</p> <p>2001.11.30 モスクワでコーカサス4の公式の第二回会合。</p>	<p>2001.5.21-22 モスクワでコーカサス4首脳会談の事前交渉が各国外相により行われる</p> <p>2001.5.28-29 モスクワでコーカサス4会議をより有益なものとするために「コーカサスの平和と発展」という学術会議が開催される。</p> <p>2001.5.31 ミンスクでのCIS首脳会談を利用し、コーカサス4の公式の第一回会合。</p> <p>2001.10～ ロシア軍機によると思われる空爆がアブハジアのコードリ渓谷やチェチェン国境付近の地帯で頻発。グルジア側はロシアを再三に渡り批判。</p> <p>2001.11.24 モスクワでコーカサス4国会議長の会議。</p> <p>2001.11.27-28 ロシア軍機によると思われる激しい空爆がチェチェン国境付近になされ、シェワルナゼはコーカサス4会談を目前にした圧力だとして遺憾の意を表明。</p> <p>2001.11.30 モスクワでコーカサス4の公式の第二回会合。</p>	<p>2001.5.21-22 モスクワでコーカサス4首脳会談の事前交渉が各国外相により行われる</p> <p>2001.5.28-29 モスクワでコーカサス4会議をより有益なものとするために「コーカサスの平和と発展」という学術会議が開催される。</p> <p>2001.5.31 ミンスクでのCIS首脳会談を利用し、コーカサス4の公式の第一回会合。</p> <p>2001.9.11 以後、欧米やNATOに対するアプローチが変化。</p> <p>2001.9.14-15 プーチン大統領のエレヴァン公式訪問。</p> <p>2001.11.24 モスクワでコーカサス4国会議長の会議。</p> <p>2001.11.30 モスクワでコーカサス4の公式の第二回会合。</p>	<p>の悪化が憂慮された。</p>		<p>2001.05.11-12 ローマとトビリシでCEPSが会議開催</p>	
--	--	---	---	-------------------	--	---	--

<sup>1</sup> 南コーカサス3国+ロシア、イラン、トルコ+欧州、米国。このサブバージョン3+3+2+3方式もある。この場合、最後の3はナゴルノ・カラバフ、アブハジア、南オセチアを表し、国際的に認められた「国家」の枠組を超えて、全ての地域「国家」を含むことを目的とするが、紛争に絡む微妙なステイタス問題に抵触。

<sup>2</sup> RFE/RL Report, Vol.1, No.17, June 23, 1998.

<sup>3</sup> グルジアのメナガリシヴィリ外相によれば、「平和のコーカサスイニシアティブ」が貫く原則は、「①国際的に公認された国境内で諸国家の権威を公認

すること、②民族紛争によって生じた難民が各々の家に戻れるように安全が保障されること、③人権、特に、少数民族の人権を尊重すること」であると述べた (Stuart Parrott, “Caucasus: Conflicts Threaten Democracy,” *RFE/RL*, November 14, 1997.)。

<sup>4</sup> Gia Tarkhan-Mouravi, “The Georgia-Abkhazian Conflict in a Regional Context,” *Georgian and Abkhazians: The Search for a Peace Settlement*, Vrije Universiteit Brussels, August 1998.

<sup>5</sup> 合意文書は、米国のグルジアに対する軍事援助の可能性を探ることを目的にするとされ、その中には、グルジア領空と領域内河川の統轄と、地上軍のラジオ通信の近代化が含まれ、98年の共同軍事演習も盛り込んでいる。これは PFP の枠組でなされる。さらに、ペンタゴンがヘリコプター14機、軍艦2隻を供与し、グルジア海軍の訓練を行うことも取り決められた (Vladimir Socor, Elizabeth Teague, and Stephen Foye, “U.S. - Georgia Military Cooperation Revealed,” *Jamestown Foundation Monitor* 4, No.59 (March 26, 1998)および、Vladimir Socor, Elizabeth Teague, and Stephen Foye, “More Facts On U.S. - Georgian Military Cooperation Revealed,” *Jamestown Foundation Monitor* 4, No.63 (April 1, 1998))。

<sup>6</sup> 防衛協力と30以上の分野での共同活動がうたわれ、99年の米国の対グルジア援助に関する詳細な文書が交わされた。これは、新興独立国と欧米軍による計画として、ウクライナ・NATO計画の次に位置するものとされた (Peter Grigoriyan, “Shevardnadze Welcomes Assistance From U.S. Navy,” *RFE/EL Newslines* 2, No.176 (September 11, 1998))。

<sup>7</sup> Giorgi Burduli First Deputy Foreign Minister of Georgia, Statement, *NATO Speech*: Florence, Italy – May 25, 2000.

<sup>8</sup> Ministry of Foreign Affairs of Georgia, “A Stability Pact for the Caucasus,” November 11, 2001.

<sup>9</sup> NATO On-line-library (<http://www.nato.int/docu/speech/2000s001203b.htm>).

<sup>10</sup> 当時、CIS執行事務局長(1998年4月より99年3月まで)。エリツィン前大統領は、当時、ベレゾフスキーにコーカサスの紛争の収束を委ねた (*RFE/RL Report*, Vol.1, No.17, June 23, 1998)。

<sup>11</sup> 南コーカサス3国+ロシア。

<sup>12</sup> コーカサス4国+第二の保証人としてのイラン、トルコ。

<sup>13</sup> «Независимая Газета», 7 апреля 2000г.

<sup>14</sup> Republic of Turkey, Ministry of Foreign Affairs Publications, 2001-01.

<sup>15</sup> Türkiye Ekonomik ve Sosyal Etüdler Vakfı (英語では Turkish Economic and Social Studies Foundation)。学術研究と政策立案者の橋渡しを行い、民主化過程における市民社会の役割増大と、トルコとEUの関係強化を目標とし、地域の諸問題を研究課題とするトルコの主導的な民間シンクタンク。

<sup>16</sup> <http://www.ceps.be/Research/Caucasus/demirel%20speech.htm>

<sup>17</sup> *TESEVAYLIK BÜLTEN*, Kasım 2000.

<sup>18</sup> CEPS (Center for European Policy Studies) は、ブリュッセルに基盤をおく、1983年に創設された民間シンクタンク。欧州の政策立案者の間では強い影響力を持っている。バルカン版や東欧版の「安定協定」も提案し、特に前者への評価は高い。キプロス問題の和平にも関わっている。

<sup>19</sup> この会議の詳細については以下を参照のこと。Michel Emerson, “Approaches to the Stabilization of the Caucasus (Brainstorming session: The Future of the Caucasus after the Second Chechnya Conflict,” CEPS, Brussels, January 27-28, 2000), *Caucasian Regional Studies*, Vol.5, Issue 1&2, 2000.なお、EUは未だにこのイニシアティブに対して公式的見解を表明していない。

<sup>20</sup> 3章は南コーカサスを対象に、紛争解決、地域安全保障秩序、南コーカサス共同体というテーマを扱い、残りの3章はより一般的に、南方地域政策におけるEUとロシアの協力、黒海協力の拡大、エネルギー政策というテーマを扱っている。

<sup>21</sup> この歴訪の中で、「ナゴルノ・カラバフ共和国大統領」グカシャンとの会談は2000年7月31日に行なわれたが、グカシャンは安定協定の幾つかの前提を受け入れることが出来ないと述べた (*RFE/RL Newslines*, August 1, 2000.)。

<sup>22</sup> スウェーデン外相アンナ・リンツ、ハヴィエル・ソラナ高級代表、コミッショナーのクリス・パターンとの3名。

<sup>23</sup> 合意文書は、米国のグルジアに対する軍事援助の可能性を探ることを目的にするとされ、その中には、グルジア領空と領域内河川の統轄と、地上軍のラジオ通信の近代化が含まれ、98年の共同軍事演習も盛り込んでいる。これは PFP の枠組でなされる。さらに、ペンタゴンがヘリコプター14機、軍艦2隻を供与し、グルジア海軍の訓練を行うことも取り決められた (Vladimir Socor, Elizabeth Teague, and Stephen Foye, “U.S. - Georgia Military Cooperation Revealed,” *Jamestown Foundation Monitor* 4, No.59 (March 26, 1998)および、Vladimir Socor, Elizabeth Teague, and Stephen Foye, “More Facts On U.S. - Georgian Military Cooperation Revealed,” *Jamestown Foundation Monitor* 4, No.63 (April 1, 1998))。

<sup>24</sup> 防衛協力と30以上の分野での共同活動がうたわれ、99年の米国の対グルジア援助に関する詳細な文書が交わされた。これは、新興独立国と欧米軍による計画として、ウクライナ・NATO計画の次に位置するものとされた (Peter Grigoriyan, “Shevardnadze Welcomes Assistance From U.S. Navy,” *RFE/EL Newslines* 2, No.176 (September 11, 1998))。